

「年間第 24 主日」 2021 年 9 月 12 日 「一緒に祈りましょう」

皆様、
主の希望、信頼、平和のうちに、
難しい時期ですが、復活の光であるイエス・キリストはわたしたち一人一人を教会共同体として導いてくださっています。信仰はわたしたちの盾です。

9月12日は、**「年間第24主日B」**です。

では、ミサに参加することができない方々は、一緒に心をあわせて、祈りましょう。時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2021.9.12」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読 イザヤの予言書 50.5-9aと、「答唱詩編」116 (115)、第二朗読 使徒ヤコブの手紙 2.14-18と、マルコによる福音8章27-35節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い / 共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

注意 8/20-9/26、アントワン神父はおりません。従って短いコメントだけがあります。

I- 第一朗読 イザヤの予言書 50.5-9a について

「苦悩している僕」の祈りです。迫害されている預言者は神に信頼しています。「見よ、主なる神が助けて下さる。」(9節)

II- 「答唱詩編」116 (115) について

「神よ、私を助けて下さい」(4節)

詩編115-116(114-115)は、ユダヤ人によって、毎年「過ぎ越し祭」の記念の食事をする時に「感謝の祈り」として歌われています。イエスも弟子たちと一緒に過ぎ越しの食事をした時に、この詩編を歌いました。キリスト者は、毎年「聖木曜日」のイエスの最後の晩餐を記念し、同じようにこの詩編を歌います。詩編115を「感謝の祈り」として、イエスや弟子たちと心を合わせて祈り、黙想しましょう。

III- 第二朗読 使徒ヤコブの手紙 2.14-18 について

隣人愛を実践することは「信仰」の事実を表しているという使徒ヤコブの手紙の箇所は主なテーマです。

IV- マルコによる福音8章27-35節 について

イエスが与える救いは、受難と十字架に繋がっているということはお復活までペトロと他の弟子たちはまだ理解することが出来ませんでした。イエスに従う者はイエスが歩んだ道を歩まなければならないのです。

(次の話は今年の 22 主日、マタイ 16 章 21-27 節 // マルコ 8 章)

二年前、よく知っている信者が亡くなりました。77 歳の女の人でした。栃木県の小教区で彼女は 20 歳で洗礼を受けました。洗礼を受けた理由は、彼女が 17 歳の時、学校で初めてイエスの話、特にイエスが多くの病者をいやし、助け、救った、その力の素晴らしさを聞き、キリスト教を学んで信仰の道を歩むことになりました。実は、彼女は激しい骨の病気を患っていました。この病気の影響で少しずつ歩くことが出来なくなり、15 歳から歩行に松葉杖必要になりました。17 歳からは車いすでの移動になったので、洗礼によってその病気から救われることを彼女は深く願いました。二十歳になって洗礼を受け、ルルドの聖ベルナルデッタを洗礼名として選びました。しかし、洗礼式の一週間後、彼女の健康状態は悪化し、結果ベッドに横たわった生活が始まりました。彼女はすごくイエス様に対して怒り、「イエスよ、なぜわたしをこのひどい病気から解放して下さらないのか。」と尋ね、信仰の道から離れるようになりました。しかし、彼女をいつも世話していたご両親(洗礼を受けておられません)は娘に「あなたのイエス様は、苦しんでいる人と共にいつもおられるのではないのか、十字架の受難を受け、死んで復活されたのではないのか、そのようにあなたはいつも私たちに繰り返し言っていたのに。これからもあなたはイエス様を祈るべきです、助けてくれるでしょう。」と言い、ベルナルデッタさんは初めて福音の全体を読むようになりました。「神のことを思わず、人間のことを思っている。」(マタイ 16.23)、「私のために命を失う者は、それを得る。」(マタイ 16.25)、と言うような福音の言葉を読んだベルナルデッタさんは、「それは、私だ。」と深く感じて、再び信仰の道を歩むようにしました。そして 57 年間のベッドでの生活になりました。聖書を読みと黙想して、ロザリオを祈った彼女の顔は喜びと信仰の輝きに満ちていました。彼女の周りの人々は段々その影響を受けました。ご両親もそれによって洗礼を授けられました。隣の教会の信徒たちはいろいろな問題について彼女の所に相談に来ました。主任司祭も月二回御聖体を持って来て、ベルナルデッタさんと共に福音を読んで、コメントをし、一緒に祈りました。

「風に聴き木々に歌う」と言うベルナルデッタさんの書かれた詩集に「静かに聖書を読むとき、そこにイエス様の御声が聞こえて来ます。聖書は通読すれば良いものではないようです。一章一節ずつでも吟味して読めば、イエス様に出会えます。聖書の原点、つまり本質を求める教会づくりを若い皆様に目指して頂きたいと思います。」の言葉があります。

「私について来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。」(マタイ 16.24) とイエスは言われました。

今、天国にいるベルナルデッタさん、あなたは自分の十字架を背負って、イエスに従いました。私たちもイエスの命を得るため、イエスに従うことが出来ますように私たちのためにお祈りください。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「救い源である神よ、独り子イエスは、十字架の苦しみを通して、あなたに従う道を示して下さいました。イエスを救い主と信じる私たちをみ言葉によって照らして下さい。やみに迷うことなく、あなたへの道を歩むことが出来ますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,
Look kindly upon the world, now in great difficulty
Through the spread of the new coronavirus.
May necessary medical care be given to those who suffer from the disease.
Guide those who work toward ending the infection.
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.
Welcome the deceased into your eternal kingdom.
Fill them with everlasting peace.
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.
God, the source of hope,
Guide us in this crisis
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,
That we may serve everyone in the world,
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)